

第2回地元資源利活用検討会 議事録

平成27年10月5日(月) 17時30分～
登別市総合福祉センター(しんた21) 2階 多目的ホール

◆出席委員：協議会委員

斎藤 正史	副会長
鈴木 高士	委員
守屋 聡	委員
伊奈 綾	委員
小幡 功	委員
高田 明人	委員
千葉 洋子	委員
垣内 登紀子	委員
安達 陽子	委員
望月 一延	委員
吉元 美穂	委員
近井 一夫	委員
米田 登美子	委員
井上 昭人	委員

検討会メンバー

井元 耕
岩崎 隆二
辻 勲
藤崎 一夫
和泉 薫
寺島 真一郎

計20名

◆事務局：商工労政グループ宍戸商工労政・新エネルギー主幹

奥田主査

竹中担当員

◆講師：株式会社アムリプラザ 企画プランナー 丸山 宏昌 氏

◆議題：(1) 再検証した『登別市経済が抱える問題・課題』のまとめ
について

【要旨】

項目	発言者	内容
<p>(1) 再検証した『登別市経済が抱える問題・課題』のまとめについて</p>	事務局	<p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第2回地元資源利活用検討会を開催いたします。</p>
	副会長	<p>本日の議事について説明する。昨年、株式会社アムリプラザの岡山先生・丸山先生にお越しいただき、【登別経済が抱える問題・課題】としてまとめている。当時は出席者が少なかったことから、人数の多い中でより精度を高めた内容にしていきたいと思い、今回の会議を設定した。皆さんが考える登別経済が抱える問題・課題を述べていただき、それを整理していきたい。</p>
	事務局	<p>株式会社アムリプラザ 丸山様、よろしくお願ひします。</p>
	講師	<p>本日の私の役割は、皆様がしっかり話し合いをできるように進める事である。進行方法も含めて忌憚なくご意見をいただければと思っている。</p> <p>まずは皆さんを知る時間を作りたいと思う。自己紹介と【今日の検討会にどんなことを期待しますか】を考え、グループ内で発表していただく。</p> <p>(「何かの糸口をつかみたい」「そろそろ整理を終了したい」「コンセプトの決定」「明るい方向に向かいたい」「課題解決の糸口」などの意見が挙げられた。)</p> <p>皆様が本日の会議に期待したいことがよく理解できた。本日の本題は、問題・課題の整理とまとめであるが、今後この協議体が次のステップに進んでいくタイミングや方法についても話したいと思う。</p> <p>まちづくりに関する話し合いのやり方は二つのアプローチがある。一つは“フォアキャスティング”と呼ばれるもの。これは皆さんが今やっているような、現状の問題や課題を整理し、それが起きている要因を整理していく上で、未来に対して提言をしていく。この手法は犯人探しになっ</p>

てしまいがちである。

もう一つが、“バックキャストイング”と呼ばれるもの。自分たちが思う理想の姿から、今何が出来るかを考えるというもので、昨今のまちづくりはこちらが中心になっている。ただ、バックキャストイングは問題や課題が整理されないことが多いため、両面から取りかかることが必要だ。

今回、前半はフォアキャストイングを行うが、問題を整理し続けるのは非常に根気の必要な作業であるため、後半は、未来に向けて次のステップとしてバックキャストイングをやってみたいと思う。

問題の洗い出しは、問題解決の為のステップであり、自治体の政策や施策、企業の戦略を作っていく時に初めに考えることだ。何が問題か、その問題はなぜ起きているのか、どこに問題があるか、そして、その問題はなぜ生まれてきているのかを考える。これが理想のプロセスである。

事前に各産業従事者から伺った話を基に整理した市内の問題・課題がある。これは【中小企業・農業・漁業・工業・医療福祉・商業、観光業・市内経済】の8分野があり、今4グループに分かれている。各グループが2業種を比較しながら意見交換を行い、現状の課題を出していただく。

(終了後)

問題・課題の洗い出しはここで終了する。

今度はアプローチを変え、バックキャストイングの話をしてみたい。進め方としては、3回グループワークを行い、メンバーを変えて話をしていく。15分～20分位の時間を取り、議論ではなく、会話をしていく。

1回目は、『登別経済が元気になるためにはどんな力が必要か』をテーマに話して頂く。

(1回目終了後)

今度は、メンバーの組み合わせを変える。1人だけが残り、他のメンバーは別のグループに移動

していただく。2回目のテーマは同じく『登別経済が元気になるためにはどんな力が必要か』である。最初に、残った方はグループでどんな話が出たか自分が印象に残ったこと、気になったことを1つか2つ程を交えながら話をする。移動してきた方も、前のグループでどんな話が出たのかを簡単に共有し、その後はテーマに沿って話をさせていただきたい。

(2回目終了後)

3回目は最初の席に戻っていただき『元気な登別経済の為に、どんな取り組みがあったらいいか』をテーマに話をさせていただく。

(3回目終了後)

これで3回のグループワークを終了とする。皆様が思う元気な登別経済、目指すべき未来の形が少しイメージできただろうか。

次に、違ったグループワークを行う。今皆さんが一番話したいことを書き出していただき、共通点のあるメンバー同士がそれを基にグループを組んでいく。

(グループ決定後)

このグループで、未来の形を描く『未来新聞』というものを作ってください。自分たちの今の取り組み、アイデアの種が実現した時に、どんな記事が書かれているのかをイメージし、その記事を自分達で作ってください、今後の具体的な取り組みを考えていただく参考としてほしい。

未来を描くことによって、そこから未来のトピックスを際立たせることになり、皆が思い描く未来に近づけていく為に必要な手段を考えて行ける。

(グループワーク終了後)

最後に、今回の全体を通しての感想を各自で記入し、グループ内で共有し、終了したい。

3時間半ととても長い時間だったとは思いますが、後半は少し楽しみながら参加して頂けたと思って

事務局

いる。本日はここで終わりにしたいと思う。ありがとうございました。

長時間に渡ってお疲れ様でした。また、お越し頂きました丸山先生ありがとうございました。本日はこれで終了とします。お疲れ様でした。

別紙：第2回地元資源利活用検討会 抽出された意見

～中小企業～

- セールス力の強化
- 特に商店等の販売価格が高い
- 地元の販売先の減少
- 中小企業がまちをつくっているという事を市民皆が理解していない
- 価格競争が目立つ
- 企業連携が少ない
- 採用募集しても、応募が無くなってきている
- 差別化
- 個性を打ち出す

～農業～

- 海と山が近いが、牧草の他、何か良いものはないのか？
- 獲れる作物がわからない
- 農業資源をまちの資源として有効利用
- 牛乳をベースに商品開発
- 農業製品で市民が集う牧場的レストラン
- 加工品を製造する施設の確保
- 農業に関する情報不足
- 何に困っているかが見えてこない
- のぼりべつ牛乳が高い
- 市民向け価格があったら良い
- 生乳の品質の向上が活かされていない
- 生産量が少ない
- 加工品を製造して付加価値を高める
- 地元産を購入したくても販売先を見つけられない
- ターゲットを絞ったセールス
- 農業・酪農業は小規模経営で将来が不安

～漁業～

- 関係者が怖い
- 関わりにくい
- 魚を調達してくれる魚屋さんが無い

- どこに行ったら買えるのかがわからない
- 登別＝漁業が結びつかない
- 漁師さん独自のコミュニティがある
- 登別産を探しても、身の回りで見当たらない
- 登別産を目にしない
- 登別産のものを食べてみたい
- 産地直送センターなどが無い
- 漁師さんは今のままで食えている意識
- 「流通」への意識をあえて持とうとしない
- 市民へのツアー対応には施設整備がされていない
- 漁業について何が問題なのかわからない
- 実情の情報が少ない

～工業～

- 工業でのまちの中での連携がとれていない
- 新しい分野へ進出するスピード感が乏しい
- 食品製造業以外の事業者とは生活での関わりが薄い
- 登別ならではの工業
- 登別でなくてはならない理由
- 工業って何
- 登別の工業のマーケットは何？
- 一般的に製造業の新たな立地に必要な工業用地が少ない

～医療・福祉～

- 人材不足
- PR不足
- 連携不足
- 賃金問題
- 市民・市が望む方向が明確になっていない
- 事業者間の横のつながりがない
- 障害者理解の教育をすすめる
- 人材がいない
- 近くに開業医がいなくて
- かかりつけの病院を探すのが大変
- 施設見学会などを市民向けに行う
- 高齢者は医療機関を上手に利用していない

- 福祉関連の情報が一方向すぎる
- 市民全員で支えるまちづくり

～商業～

- 地元の商品
- 高齢化問題
- 人材不足
- 人口減少
- 後継者問題
- 地元消費循環
- 地元産品が手に入りやすい直営店があればよい
- 商品だけでなくコミュニケーションの場となる商店街づくり
- 市民がどういうまちを描く
- 道の駅があるとよい
- 小売商業者のレギュラーカスタマーは、入院・施設入居することにより関係が切れる

～観光業～

- 温泉地域と他の地域は別物だと感じる
- 一体感がない
- 旅は温泉街内で完結している
- 日本人客が少ない
- 日本人客がインバウンドの外国人観光客を嫌って登別温泉に泊まらない
- 日本人客が登別温泉に泊まる動機となる魅力がない
- 温泉観光からの脱皮
- 温泉街は、市内経済交流について考えていないのでは
- インバウンド（海外、特に東南アジア）に傾斜しているのが良いのか、そのリスクはないのか
- 観光都市という割に、バリアフリー対応の整備などの徹底がされていない
- ハード整備が不足している
- 登別温泉街の冬期間の街歩きがしにくい
- 高速バスの停留所が小さい
- 市内を巡回する無料バスで温泉地区にもっと行きやすくしたらどうだろう
- 女性は購買力が旺盛で、買物も旅の楽しみなのに、現状では満たされない
- 温泉だけではない観光の切り口がほしい
- 体験観光が少なすぎる

- 滞在型観光に向けた取組が弱い
- 普通の暮らしの中できらりと光るものを観光に生かすべき

～市内経済全体～

- 産業振興と地域振興をリンクさせる整備が無い
- それぞれの施策に分断感がある
- コミュニティビジネスに対する評価が低い
- ふるさと納税や移住促進などの流行のメニューへの取り組みを強化すべき
- 温泉熱を活かしたエネルギー開発に取り組んでいない
- まちのものをいつでも買えるお店があればよい
- 市内の企業がわからない
- 企業の横のつながりが感じられない
- 購買の市内循環ができていない
- 市内企業との取引が少ない

～実施後の感想～

- 皆さんの様々な意見・考えを知ることができて、大変興味深かったです。地元愛・温泉（観光）・道の駅・企業連携 等のキーワードを活かしてのまちづくりを進めていきたい。
- 問題・課題は概ね出たと思います。あとは解決策です。未来のイメージができるよう、議論を進めたいと思います。
- 経済について考えるのは難しいと思いました。自分の考えをまとめて表現するのも大変でした。
- 今までは現状・課題ばかりが先行する議論で何も進まなかったが、今日は未来像を語り、前向きな意見が沢山出た。大変良かったと思う。
- 今回、このような会議に初めて参加しました。多くの方と意見を出しあい非常に良かったと思います。登別市の発展に向けた意見や、皆の気持ちが伝わって参りました。案を実現するには難しい所がありますが、少しでも前に一歩進めればと思います。
- 楽しかったです。時間が足りなかったです。色々な方との会話は大事です。未来新聞が面白かったです。
- 夢のある話は楽しかった。実現させるために、今後も検討会は必要だと思う。
- その街に住む人がその街の事を大切に思うこと、これが第一歩だと思います。登別市にただ住むだけじゃなくて、もっと良い街になるように少しでも考えながら生活していこうと思いました。
- まちをどうしたら元気にできるのか真剣に考える時間になったし、ちょっと

未来思考になったかな。

- 前途に光が見えた。
- 新たな可能性を考える上で、様々な方の考えが聞けました。登別市の経済を考えた時、やはり企業人としての努力とどうしたら経済がよくなるのかを話し合えればと思います。
- 今後何回かに分けてこの検討会を行うが、意味のある、実現できる検討会になって欲しいと思う。検討だけでは、どこでもできる。
- 登別の未来を楽しく明るい街にしていきたいと思った。
- 輝かしい近未来の登別が見えてきた。
- 課題の洗い出しから議論をして、取り組むべき事への手法が見られて面白かった。
- 未来へ思いをはせる事の大切さを感じた。「未来を思い描く」ことが大切！
- とても楽しい時間でした。
- 未来を考えることにより前向きな議論となった。今後は、今回のような未来に向かって経済を活性化するためのより具体的な議論ができればと感じる。
- 将来目指すべき方向が少し見えてきました。地域資源は何かを今一度見つめ直す良い機会となりました。